令和元年度第３回米子市学校給食運営委員会議事録概要

１　**開催日時**　　令和２年２月２０日（木）　１５：００～１６：２５

２　**開催場所**　　米子市立学校給食センター会議室（米子市大谷町２８番地８）

３　**出席者（敬称略）**

［米子市学校給食運営委員会委員］

住田委員（会長）、藤原委員（副会長）、本池委員、廣江委員、永井委員、後藤田委員、土井委員、佐伯委員

［事務局］　学校給食課

山中課長、野口課長補佐、堀部係長、山下栄養教諭

４　**会議次第**

（１）開会

（２）会長あいさつ

（３）議事

ア　令和２年度事業計画について

イ　その他

（４）その他

（５）閉会

５　**議事の概要**

（注：会長あいさつ及び事務局の資料説明は省略しています。また、発言は要約しています。）

議長（住田会長）

それでは、次第に従いまして、３議事の（１）令和２年度事業計画につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局（野口課長補佐）

そういたしますと、令和２年度事業計画について説明させていただきます。

［令和２年度事業計画について説明を行う］

議長（住田会長）

ただいまの説明につきまして、何かご意見やご質問等はございませんでしょうか。

藤原委員

２ページの食に関する指導の充実で、保護者を対象にした試食会というのは、どんな形でやられて、その効果というか成果というか、どんな様子なのか、教えていただけたらと思います。

事務局（山下栄養教諭）

小学校を中心に、どこかの学年が宿泊合宿とかで給食がない時は、その学年の食缶や食器が使えますので、その日に１年生の保護者を対象にされるところもありますし、学校によっては１年生から６年生までの保護者を対象に試食会を計画されています。

そこの中で、学校給食を試食してもらうだけではなくて、給食の取組とか、あと、お家の方と連携して、食育の面でこういうことを一緒に取組んでいただけませんかという提案を含めた講演をさせてもらっています。

小学校は、ほとんどの学校で１回はされていると思います。中学校も今年は計画されているところも多かったように思います。尚徳中学校もこの前ありました。あと、美保中、東山中もあるそうです。

藤原委員

子どもと一緒に食べるのですか。

事務局（山下栄養教諭）

学校によって違います。別室で配膳して教室にそれを持って行って一緒に食べられるところもありますし、子ども達が食べる様子を参観した後で、家庭科室とかの別室で保護者だけで試食される場合もあるように聞いています。

藤原委員

申し込みをとって、お金を払って食べるという感じですね。さっき、お話しがあったのですが、逆に言うと、食缶が足りないから全部いる時はできないということですね。

事務局（堀部係長）

宿泊訓練とかで４年生の児童がいない時とか、その空いた食缶などで実施していただくというのが基本となっています。食器もないですし、それをコンテナに積むスペースもありません。どこの学校にもその期間に実施していただくようにお願いしています。

本池委員

大篠津小学校も１年生を対象にあるのですけど、すごく盛り上がります。米子市の給食を食べて育っている親が多いので、懐かしいねえとか言って、かなり盛り上がります。

それに栄養士さんが、ためになるいろんなお話をしてくださりますし、このメニューが美味しかったから家でも作ってと子どもに言われたけど、どうやって作ればいいのですかとか質問したりして、かなり楽しい試食会でした。

議長（住田会長）

関連していいですか。保護者を対象にした試食会とあるのですが、就将は校舎が新しくなったため、先日、地域の方、公民館の講座に来ておられる方々から校舎見学とぜひ給食も食べたいという相談を受けました。学年が給食を止めている時だったら、可能かなと思っているのですけども、しっかりアピールをさせてもらってもよろしいでしょうか。

事務局（堀部係長）

趣旨等を勘案して、基本的には対応していきたいと思っております。

佐伯委員

１年生のご飯の量を調整するのを９月末までにするというのは、アンケートの結果にもそういう要望があったので、いいことだなあと思いました。

それと国産の小麦を使うということで、すごいなあと思ったのですけども、パンを製造されるパン屋さんの方の技術的なこととか、それから、子ども達が実際に食べる訳なので、こ

れまでとどういうところが、味とかが違ったりするのかとか、ちょっとお聞きしていいですか。

事務局（山下栄養教諭）

年に１回、県内のパン業者さんのパン検査というのがありまして、その会に私も参加させてもらっています。その中で国産小麦のところもあれば、外国産小麦のところもあるのですけれど、食べてもすごく差があるという感じはあまりありませんでした。やっぱりパン業者さんもプロですので、そこまで差があるという感じはしておりません。

大山小麦の方は、資料を取り寄せたのですけれども、少しビタミンＢ群というか、食物繊維を多く含んだパンのようです。パン組合さんというパンの業者さんで作られている組合さんがあるのですけれども、そこで作り方とかを研究されていますので、大山小麦パンにしても情報共有をして、おいしく作ってくださるのではないかなあと思っています。

初めて出しますので、子ども達の反応は分からないのですけれども、鳥取市の方はよく出されているようです。

佐伯委員

年間を通して全部、パンを大山小麦のパンにするわけではないのですか。

事務局（山中課長）

月に１回大山小麦のパンを提供いたします。

事務局（山下栄養教諭）

せっかくですので、いきいきこめっこデー、食育の日が毎月１９日ですので、その日の近くに提供して、アピールをしていきたいなあと食育的にも思っています。

佐伯委員

はい、分かりました。

議長（住田会長）

その他、いかがでしょうか。

後藤田委員

３ページの衛生管理の徹底の関係ですが、日々調理従事者の皆様は、食中毒予防や異物混入防止に取組んでおられるかとは思うのですけども、食品衛生法という法律が改正されて、令和３年６月までにハサップという衛生管理手法を取り入れていただく必要があることになっております。こちらの学校給食センターと第二学校給食センターについては、県の認証をとっていただいております。それ以外の共同調理場も認証をとってくださいという意味ではないのですけども、そういう手法で衛生管理をしていただく必要があるという意味ですけども、その他の共同調理場の取組状況はどのようになっているのか、もし分かれば教えてやってください。

事務局（山中課長）

先程申しましたように、米子市の５つの共同調理場はすべて東洋食品さんに受託していただいております。いずれの研修会もすべての共同調理場の責任者が一緒に受けていらっしゃいます。また、何かがあれば連絡を取り合って、同じ認識で作業をしていらっしゃいますので、ハサップの申請はしていらっしゃらない、認証はとってはいらっしゃらないのですけれども、同じ基準というか、同じレベルで仕事をしていただいていると思っております。

後藤田委員
　また、許可業者である東洋食品さんの方にも、県の方から研修の通知等があるかと思いますので、活用していただいて、ハサップの手法を令和３年６月までに導入していただくよう、よろしくお願いいたします。
議長（住田会長）
　その他、いかがでしょうか。
　では、その他、ないようでしたら、今、説明がありました令和２年度事業計画については、承認していただくということで、よろしいでしょうか。
各委員
　はい。
議長（住田会長）
　はい、ありがとうございます。
　では、今出た意見を参考にしていただいて、令和２年度には、学校給食をさらに良いものしていただくようお願いいたしまして、審議を終わりにさせていただきます。
　そういたしますと、次に、議事の（２）その他について、事務局から何かありますでしょうか。
事務局（山中課長）
　事務局からは、特にございません。
議長（住田会長）
　では、議事の３は、ここまでにしまして、４のその他について、何かございますでしょうか。
事務局（山中課長）
　昨年１２月に委員の皆様には郵送させていただいております令和元年度の学校給食アンケートのまとめ、それと今年度のいきいきこめっこプロジェクトの取組につきまして、山下栄養教諭からご報告させていただきたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。
各委員
　はい。
事務局（山下栄養教諭）
　それでは、昨年度から取り組み始めました、いきいきこめっこプロジェクトと学校給食アンケートの結果について、今年度の事業の報告として発表させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

［いきいき こめっこ プロジェクト及び令和元年度 学校給食アンケートのまとめについて説明を行う］

議長（住田会長）
　山下先生、どうもありがとうございました。
　いきいきこめっこプロジェクトの取組と今年度の学校給食アンケートのまとめについてお話をいただきました。何かご意見、ご質問等がありましたら、ぜひお願いいたします。

藤原委員

教員の声を聞くと、メニューをよく考えていただいて、子ども達にとっては嬉しい給食メニューというか、食べやすいメニューにしていただいているということとか、栄養士の方に来ていただいて、丁寧に気持ちの入った指導をしていただいていて、本当に喜んでいます。

その結果、中学校の残量が減ったということを聞いて嬉しいなあと思う反面、本校はほんとに残量が多く、変わりません。食品ロスの時代にあの残量を見ると心が痛みます。

それで、どうやったら残量が減らせるのかなあと思った時に、アンケート結果を見ると量が多いとか、時間がないというのが多いですよね。時間がないというのも、ある面、量が多いということと関係してくるのかなあと思います。やっぱり量の問題というのは、特に女子にはすごくあるのかなあと思いますので、例えば、これだけ毎日残っているので、ある程度もう残るのを想定して、内容を量から質に変えていくというようなことは考えてはおられないのか聞いてみたいなあと思いました。

事務局（山下栄養教諭）

私も出したものを食べてくれる給食というのが一番嬉しいかなあと思っています。正直食べてくれるものを出すのは簡単かなあと思っています。

ですが、成長期の子ども達に必要な栄養素というものが決められているだけではなくて、やはり成長期ですので、その時期に必要な栄養素というのがあります。量もあります。だから、そこをどう工夫して食べるように出すかというのが、私達に求められるスキルなのかなあと日々葛藤しているところです。

で、今年度、昨年度までと比較して残量が減った中で考えられるのが、組合せというものも考えましたし、例えば、これは苦手だけど、これとこれとは食べてくれるだろうというものを組合せて、トータル的に絶対量は食べるという工夫をしてみました。

あと、一回目の運営委員会でもお話しましたが、ひじきとかの見た目の量を少し減らして、その代わりに毎日の調理にひじきと同じ鉄分を持っている海藻類を少しずつ入れてみるとか、いろいろ工夫はしています。

やっぱり、成長期ですので必要量は出さなければならないのですけれど、それを食べてくれるように工夫していくということが、学校給食としてはしていかなければならないことなのかなあと思っています。

それと同時に指導の方で、先生方と連携を図りながら伝えていく。私は、今年から中学校にも指導に出させてもらったのですけど、中学校からいきなり食べましょうというのは、なかなか難しいと思いました。小中連携というか、小学校の時からが大事かなあというふうに思っています。実際、小中で連携していた時に効果が出ましたので、小中連携かなあ私としては思っています。１、２年で変わるものではないと思いますし、難しいところです。

議長（住田会長）

栄養教諭として奥の深い話ですね。単純に残菜量が減ればいいのかなあと思ってしまいますが、そうではないということですね。

事務局（山下栄養教諭）

そうです。それと、残量だけを見てしまってもだめで、例えば、今は残量が多くても、給食時間の指導とかで、食に対してこれが大事だよということが心に残っていて、将来それをきちんと守れる子に育てていくというような、今だけじゃなく先を見た指導ということも大事だなあと思っています。

私たちはもちろん残量が減った方が嬉しいのですけども、それは一つの目安として、やっぱり目標とするのは子ども達に生きる力を付させたいというところで、給食時間に残量、残量と言って、楽しい給食時間をそういう雰囲気にするのも間違っていると思いますので、今ではなくて先を見た指導というのも必要なのかなあと思います。

廣江委員

うちは５人家族で１番下の子が中学２年生で女の子ですけど、家でも、聞いていると学校でも給食を残すそうです。家のご飯も、白ご飯があと二口とかを平気で残します。上２人の子の時はそんなことはなかったなあと今考えていたら、上の子と下の子は１０歳離れているので、歳も違いますし、食べる物も違ったりという時期も当然あったりしました。今は家族が一緒に食事をすることもないのですけど、その時は、一番上がお兄ちゃんだったので食べる量も多かったり、真ん中は女の子だったので量を減らしてやったりしていたので、出されたものを残すことはありませんでした。それが、一番下の子だけを中心に考えた時に、その子はもう残しても平気みたいな感覚になってしまったのかなあと思ったりもします。家の方でもそういうのはちょっと見直しというか、フォローをしていかないといけないのかなあと思いました。

事務局（山下栄養教諭）

私も中学校に行った時に、残った量を見ると残念な気持ちになるのですけど、先ほど言われたみたいに中学生は平気で残したりもします。食べ物ですし、それを作ってくださる方の気持ちも入っていますし、命をいただいているということですので、中学生には栄養素のこともですけど、残す時の気持ちというのが大事なんじゃないかなあと思います。ぱっと投げるようにして食缶に戻す生徒には、すごく残念だなあ、命をいただいているのだから、もう少し残して申し訳ないという気持ちで残してくれるとうれしいかなあ、というぐらいのアプローチ。そこだけは私の中で、栄養教諭人生でどうしても譲れないところです。感謝の気持ちを持ってほしいと思うので、残量の数値だけではなくて、残し方というところをおさえていくことで、自然と少し変わってきてほしいなあと思います。そういうアプローチで、残量の数値のところは、小学校からだと思いますので。この前の試食会でも話させていただいたのですけど、やっぱり、小学校が増えると、比例して中学校も増えてきていて、校区全体が増えていくというような傾向があるので、この前は両方に話させていただいてよかったなあと思っています。

議長（住田会長）

はい、ありがとうございます。残菜をテーマに食育の根幹に係わる話ができたのではないかという気がいたします。

佐伯委員

私は、今、押しなべて平均を出すとか、全員同じように食べなければいけないという時代から変わってきていると思っています。１人ひとりの子どもの変容というか、意識が変わっていくというか、そういうことを今度はアプローチする時に、全体を見ることも大事だけども、特定のクラスとか、特定の個人に、こういう変化がありましたというところが分かって、それが作った方の励みになったりすると思います。

それから、個人に返して、個人が自分も平気で残していたけど、そうじゃないんだなと言われて、その時にはうまく反応ができなかったけど、自分の中にそれが残っていって、同じ残すにしてもちょっと変わってきたなあということが、本人に返ればいいかなあと思ってい

ます。

だから、成果、成果と数的なことじゃなくて、心の問題とか、その辺が変わってきたり、さっきおっしゃったように、中学校を卒業した後、中学校の時にはすごく残していたんだけど、自分は恵まれていたんだなあと、気付く時がくると思うので、そういう評価みたいなものもあっていいのかなあと、このアンケート見ながら思いました。

事務局（山下栄養教諭）

小さい町に配属されていた時、成人式の時に、アンケートを取らせてもらったことがありました。給食時間の指導を覚えていますかとか、今はどうしていますかというようなことを聞いてみました。すごく残していた人達だったのに、今は朝ご飯を食べていますとか、給食が懐かしいですというふうに、実は中学生の時より朝食を食べていたという時もありました。そういう結果の表れ方というのもあるんだなあというのは経験としてあります。

あとは、中学校に行かしてもらうようになってから、私の顔が見えるようになったので、子ども達が残す時にだんだんと声をかけてくれるようになって、「すいません。ちょっと今日は残しちゃいました。」とか、ご飯を残す時に最初行っていた頃は、「へい」とか言って食缶に入れていたのですけど、今は、「すいません。多いですよね、今日は休みが多くって。」とか一生懸命言ってくれるようになりました。

それで、そういう子ども達とコミュニケーションが取れるようになってきたら、だんだんと残量が減ってきたというのがあったので、その話を他の栄養士さんにもして、やっぱり顔が見えるというか、人と人とのつながりができると、もしかしたら変わるかもしれないということで、残量が多い学校にはもっと訪問しようという声かけもしています。また今後にそういうことも活かしていきますので、是非ご協力をよろしくお願いいたします。

事務局（山中課長）

先程、最初に話させていただいたのですが、栄養士が１０人しかおりません。学校のクラスはものすごくたくさんありますので、１年間のうちに各クラスに２回行くのが目標で、それだけしか、栄養士と直接会って話をできる機会がないということです。

やはり、学校の先生方のご協力をいただいて、これからの食育を進めていく必要があるなということは感じております。来年度に向けて出来ることからやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（住田会長）

その他、いかがでしょうか。

本池委員

先程も家庭との連携もということが出ていたのですけど、家庭との連携はいろいろあると思いますが、どういったことを理想に連携したいなあと思われているのかもお聞きしたいです。それと、給食だけでなくて、啓発活動はいろんなことについて行われていると思うのですが、学校とかで、こんな講演会をやりますといっても、出てきてくださる方は限られていて、そういうご家庭は大体朝ご飯も食べておられるし、食育もしっかりされています。

なかなかほんとに啓発をしていきたいなあと思っている家庭に届くことが少ないので、その辺をどういうふうに工夫していかれるのか聞けたらこちらも参考になるなあと思っています。

事務局（山下栄養教諭）

その通りで、どうしたらいいのかなあと何年も悩んでいます。それで、ますます、本当に課題をお話したいところとはお話ができないというのは、給食だけじゃなくて、多分すべてのことなんじゃないかなあと思っています。

ひとつ考えているのは、今は、こちらの方から試食会をしますので、というふうにこちら発信なのですけども、それを変えてみたらどうかなあと思っています。

例えば、何かの会で集まられるところに、栄養士の方が出かけて行って、５分でもいいので話をしていく。集まってもらえないのだったら、集まってもらっているところに行くというような、ちょっと逆転の発想でしてみたらどうかなあと思っています。この前、所属の学校の参観日の時に、授業の方でもさせてもらい、その後の懇談の方にも残らせてもらったのですけど､思ったより懇談では人数が減ってしまいましたので､今度はまた別の機会をみて、こちらの方から出かけていくというのも、ひとつの方法なのかなあというふうにはイメージをしています。いい知恵があったら逆に聞いてみたいぐらいです。

本池委員

どういう連携をとるのが理想的だと思いますか。家庭にこんなふうにしてほしいと思っておられるようなことがありますか。

事務局（山下栄養教諭）

話をすると絶対にお子さんに対しての愛情はそれぞれ持っておられるので、ああそうですね、ちょっと気を付けてみますというふうに、ほとんどの保護者さんが感じてくださっているなあとは思っています。

だけど、先ほど言われたみたいに、その話をする時におられる絶対数が少ないので、気付いてもらうというきっかけづくりを、集まっておられるところに出かけて行ってする。まずは気付いてもらうというところから始めていって、そこから深めていかなければだめなのかなあとは思っています。気付いてもらうきっかけづくりを増やしていきたいと思っています。やっぱり、手紙とか、ホームページとかは一方的ですので。悩みどころで、十何年経っても解決しません。永遠のテーマじゃないかなあと思います。

議長（住田会長）

おそらく明快な答えはないかと思います。小学校、中学校で学んでいく中で、いろんな啓発活動について、小学校の６年間、中学校の３年間、子ども達は目の前を通り過ぎていくのだけれども、明確な成果は出ないにしても、諦めずに、自分達の前にいる時に、ちゃんと声をかけていくというか、それを続けるしかないのかなあと個人的には思っています。

廣江委員

学校の行事とかで、親も子どもも一緒になって来ていただいて、料理を作ってということもできますか。

事務局（山下栄養教諭）

はい、できます。

廣江委員

私は、小学校の時に６年間ずっと学級部を担当していました。学年行事を行うのは平日じゃないのですが、小学校の時は、学年行事すると、けっこう保護者の方に集まってもらえたり、子ども喜んで来てくれたりしていました。

事務局（山下栄養教諭）
　そういうところには、保護者がたくさん集まられるのですか。
廣江委員
　けっこう集まられます。低学年の方が集まる率が多いです。逆に小学校６年生になると、今後そういうのがあまりなくなるので、子どもと一緒にやろうかみたいに、集まる人も多かったです。
本池委員
　６年生が出席率はすごく高いですよね。
廣江委員
　ですよね。ちょうど中間が少ないですよね。
本池委員
　そうですよね。
廣江委員
　それが、平日ではないので、可能なのかどうかということがあるかとは思うのですけど、そういうところで、できればいいかなあと思います。
事務局（山下栄養教諭）
　いいお話をお聞きしましたので、活用の仕方を考えてみようかと思います。
廣江委員
　学校の保護者の方も、そういうのを逆に言ってもらうと助かる人達もいるかもしれません。何か考えないといけないと思っておられる保護者の方もおられるので、例えば、そういうのをやってみられませんかということがあれば、お互いにいいのかなあと思います。
議長（住田会長）
　また、機をとらえて参考にしていただきたいと思います。
事務局（山下栄養教諭）
　はい、分かりました。
議長（住田会長）
　はい、ありがとうございました。他によろしいでしょうか。
土井委員
　私は学校薬剤師をさせていただいております。市内の小中学校を回らせていただいて、環境衛生検査、照度とかを調べさせていただいております。最近は、学校給食センターの施設の管理ですとか、検査等にも立ち合いをさせていただいております。
　それで、毎年の夏の暑さということで、小中学校にはエアコンの設置が徐々に進んでおります。給食センターの学校給食衛生管理基準の中にも、給食センターは温度が２５℃以下、湿度が８０％以下という規定があり、各給食センターの方ではそれが守られている現状はあると思うのですが、各学校の給食を受ける部分の配膳室もやっぱり給食センターと同じ基準であるといわれております。市内の新しい学校の配膳室はエアコン設置も徐々には進んでいるのかなあとは思いますが、既存の古い学校も各教室のエアコン設置は進んだと思いますが、配膳室につきましては、まだまだ未実施の部分があるのかなあというふうに思います。どの程度の施設について、配膳室の温度管理等が難しい部分があるのか伺ってみようと思います。

事務局（山中課長）

実は、今日、議会の方にも市長が報告をしていると思うのですけど、来年度、学校所管のすべての配膳室にエアコンを設置することが決まったようですので、今まで、温度管理がなかなかできなかった部分はありましたが、そこが安全にできるようになると思っています。

土井委員

教室のエアコン設置をする時に、配膳室もぜひ一緒にお願いしますと、県の方にもお話をさせていただいた経緯もあったのですが、ちょっと配膳室まではという回答が以前あったものですから。

事務局（山中課長）

今年の夏、すぐに設置するということではなく、来年度の予算で設置させていただくということです。各学校、順番とか、予算の使い方があると思います。エアコン設置は、教育総務課が担当をしておりますので、もし分かりましたら順番などもお知らせしたいと思います。

土井委員

食のことで、子ども達にとっても一番大事な部分です。お金も関係することなので、一斉にすべての学校にという訳にはいかないでしょうが、一日も早く設置ができますように、よろしくお願いいたします。

佐伯委員

それに関連して、アンケートの４４ページに、「給食室を作ってほしい。廊下にコンテナがあるのは不衛生。小学校１人」というのがあったので、これはまた今後考えていかないといけないのかなあと思っています。

それと「給食に関わる学校側がしている事務的な業務を軽減するような体制を見直すべき。学校の負担が大きい。」というのが中学校から１人挙がってきているので、この辺はすぐに返事を求めるというよりは、今後また考えていったらいいのかなあと思っております。よろしくお願いいたします。

議長（住田会長）

はい、よろしいでしょうか。

たくさん意見を出していただきましたが、ベースに安全、安心な給食があってこその話だと思いますので、ぜひ、また、よろしくお願いしたいと思っています。

では、最後に事務局から何か連絡事項とかありますでしょうか。

事務局（山中課長）

次回の運営委員会ですけれども、４月に開催させていただこうと思っております。その時の審議内容は、来年度の給食費について、決めていただければと思っております。よろしくお願いいたします。資料の方は、事前に送付させていただきたいと思います。

議長（住田会長）

それでは、閉会の方に移らせてもらってよろしいでしょうか。

では、今回で令和元年度の会議が終わります。今日もですけど、貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。

以上をもちまして、令和元年度第３回米子市学校給食運営委員会を終了いたしたいと思います。ありがとうございました。